

# ダクト発生9~7エリア間オープン情報

2006年10月22日 JG0TEV 中村

## 10月22日のダクト発生域(推定)



早朝と夜間に9~7エリア間オープン状態が確認されましたが強いダクトではありませんでした。

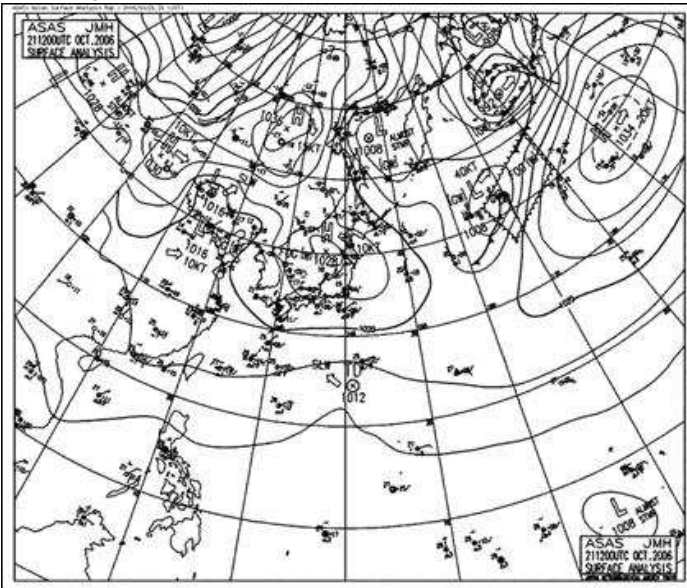
日本付近は気圧の谷の接近に伴い、湿潤域、上昇流域、正渦度領域に覆われたことでダクト発生域は限定され強いダクトには至らなかったと考えます。

## 気象解析

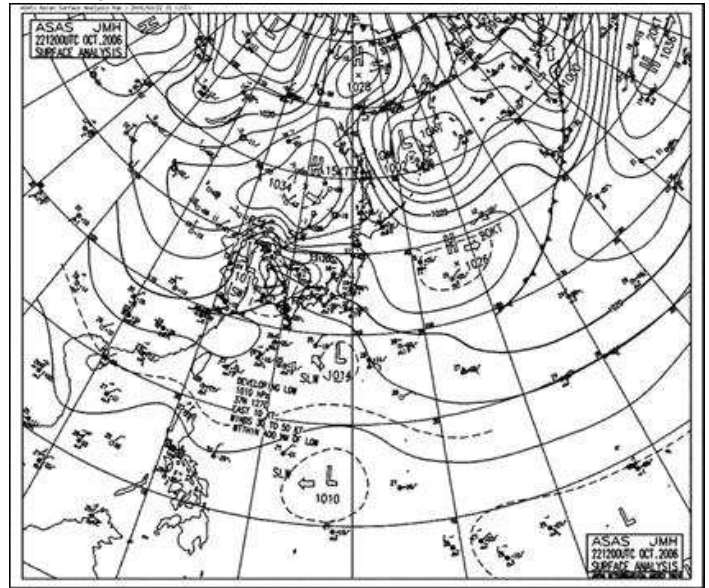
地上天気図から 秋の空気を伴った移動性高気圧が勢力をやや弱めながら日本海から本州付近を覆っていたことがわかります。850hpa面解析図をみると、本州付近は1,560mの等高度線で囲まれた領域に覆われていたことがわかります。一方で、北日本を中心に寒気が流れ込んで気温が低い状態になっていたことも読みとれます。

## 地上天気図

21日21時



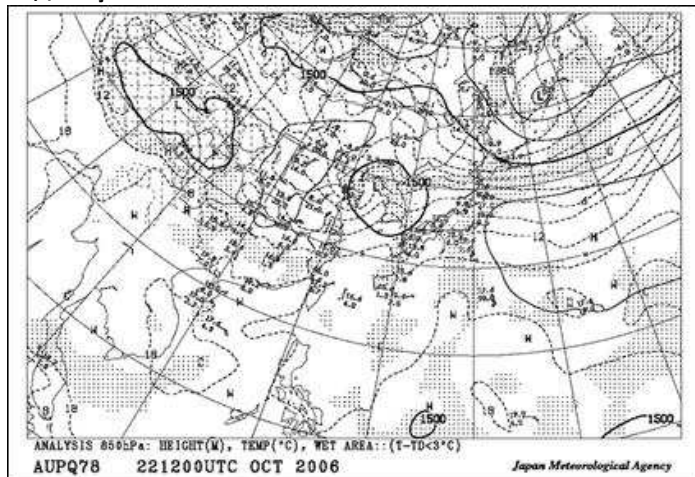
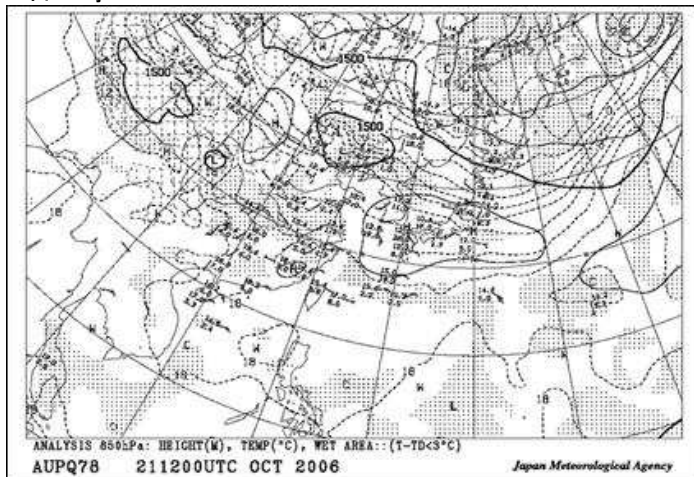
22日21時



850hpa面高度・気温・湿数

21日21時

22日21時



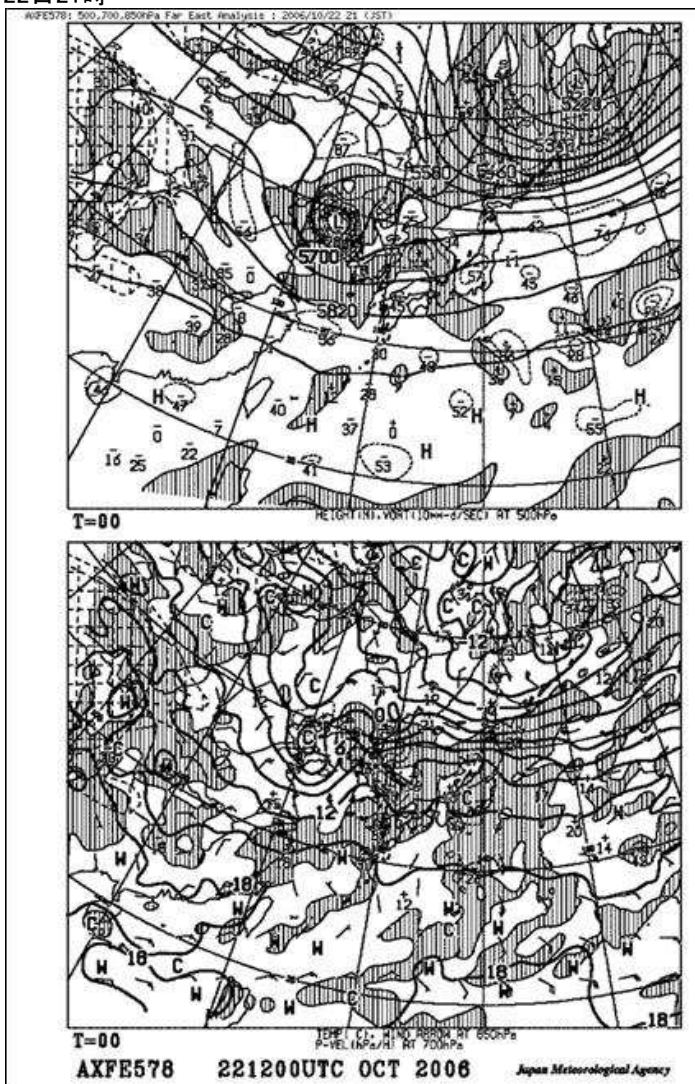
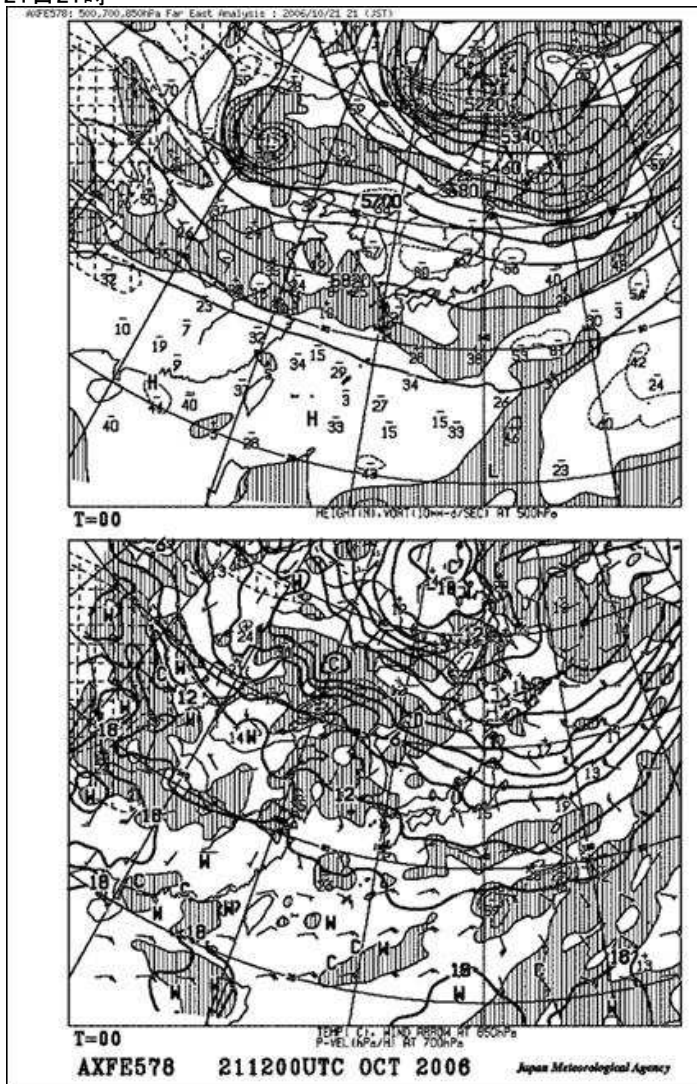
500hpa面の等高線を見ると、本州以南では5,700mを越えていておおむね高気圧の勢力圏内ですが、リッジは不明瞭です。700hpa面鉛直流解析図では、21日の下降流域には寒気移流が寄与していて、22日の上昇流域には暖気移流に伴う上昇流が寄与しているものと考えられます。いずれもダクト発生には不利となる条件です。

以上から、21日から22日まではダクト発生条件がそろいやすい条件とそろにくい条件によって、結果的に範囲が限定された弱いダクト形成となったものと考えます。

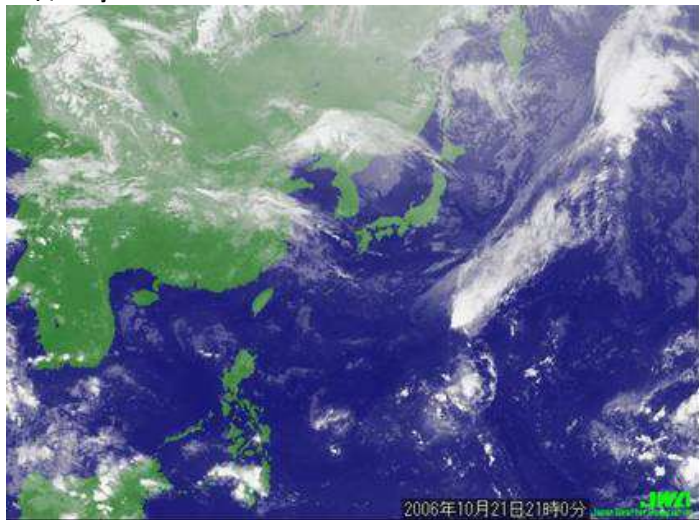
500hpa面高度と渦度・700hpa面鉛直流と850hpa面気温

21日21時

22日21時



【参考】赤外線雲画像  
21日21時



22日21時

